野球部員の皆さんへ　～代替大会開催までの道のり～

宮城県高等学校野球連盟　会長　丹野　高雄

今年の選抜大会、春季大会、ついには選手権大会までもが中止になってしまい、部員の皆さんにとっては、甲子園を目標に高い志をもって積み重ねてきた練習に、どのように終止符を打ったらよいのかわからない、気持ちのやり場がない状態が続いていたと思います。県高野連としては、これまでの大会の中止を受け、そのたびに代替大会の開催を模索してまいりましたが、選手の皆さんはじめ関係する全ての方々の安全に配慮すればするほど大会の開催は叶いませんでした。

このたび、人々の平和な日常が帰ってくることへの強い願いと日々の努力、医療関係者の献身的な対応、研究者たちの英知の結集により、ついに新型コロナウイルス感染の抑え込みに一定の成果が見え始め、大会の規模縮小や様々な工夫や努力で選手権大会宮城県大会の代替大会の開催のめどが立ってまいりました。

しかし、グローバル化の進んだ社会においては、常に感染症の脅威にさらされ、第二波発生の可能性は否定できません。したがって、代替大会の開催までの道のりは未だ遠く、県高野連としては、選手諸君の安全を確保するために、できる限りの対策を講じ、皆さんを応援してくれる全ての方々と協力しながら、大会開催に力を尽くしてまいります。部員の皆さんは、これからも新しい生活様式を模索、定着させつつ、チームで感染防止に努め、開幕を信じ、大会に向けた質の高い練習に励んでほしいと思います。

ところで、部員の皆さんにお願いがあります、やはり、感染症への不安を払拭できないでいる部員、大会の中止をうけて、野球を続ける気持ちが切れてしまい、既に新しい目標に邁進している部員もいると思います。是非、仲間である部員個人の意思や、選択を受け入れ、尊重していただきたいと思います。

結びに、代替大会では、昨年12月に各校の代表者が集うリーダー研修会・アナウンス講習会で作り上げた令和2年度のスローガン「感謝の想いを白球にのせて～頂点目指し２０２０をさらに熱く～」を高く掲げ、これまで培った全力プレーで、多くの人々に感動そして元気や勇気を送り、人々の心に残る大会が開催されることを楽しみにしております。